

緑が丘

学校教育目標
自ら考え
正しい行動のできる
心豊かな生徒の育成

緑が丘中学校
学校通信 NO5
令和4年9月1日

新たな気持ちで迎える2学期に

空を流れる雲からも秋の気配が感じられるようになりました。長い夏休みも終わり2学期が始まりました。この夏休みも、さまざまな場面で生徒の皆さんの活躍にふれることができ、大変うれしく思っています。

例年にも増して過酷な暑さの中での日々の部活動。県大会や、全国大会という大舞台への挑戦。吹奏楽コンクールでの演奏。市民じんけんの集い等各種大会での表彰。生徒会交流会や三木防災クラブ夏期研修会への参加。学校での生活とはちがう経験は、かけがえのないものとなったはずです。そしてこれらの経験はこれからの学校生活をすすめるうえでの大きなエネルギーとなることでしょう。



秋の気配の感じられる空

さて、1学期の終業式で生徒の皆さんに夏休みの自由に使える時間をぜひ自分の弱点の補強、強みを伸ばす時間に充ててくださいという話をしました。そのためには、与えられたことをこなすだけでなく自分を分析し得意なこと、苦手なことを知る。そして、どうすることが自分を伸ばすことになるかを**考え**、最適な方法を**判断し**、**行動する**ことが必要となります。部活動や趣味に打ち込むこと。普段できない読書や自由研究に取り組むこと。そして自分の苦手を克服するために学習に取り組むこと。できたことがきっとあるはずです。できたことに自信を持つこと、そして、自分で考えて判断し、行動することを意識して2学期の学校生活を送ってほしいと思います。

全国高校野球選手権大会は、仙台育英高校の初優勝で幕を閉じました。インタビューで須江監督はコロナ禍が始まると同時に入学した3年生らナインに対して「入学どころか、おそらく中学校の卒業式もちゃんとできなくて、高校生活は、僕たち大人が過ごしてきた高校生活とは全く違うんです。青春ってすごく密なので。でもそういうことは全部ダメだダメだと言われて、活動をしていてもどこかでストップがかかって、どこかでいつも止まってしまうような苦しい中で、諦めないでやってくれた」と称えられました。須江監督のお話そのまま、中学生にも当てはまります。我慢に我慢を重ねた中学校生活。1学期にはようやく3年ぶりに全校生で体育祭を迎えることができました。その時の生徒の皆さんのほじける笑顔と躍動する姿、全力で体育祭を楽しむ姿が目には焼き付いています。

2学期は3年生の修学旅行、そして文化祭など多くの行事があります。まだまだコロナ禍は続き、制限のある中での生活になると思いますが、諦めずできることに精一杯取り組み、今しか創れない「密」な思い出を創ってほしいと思います。

(校長 西臺 士郎)

8月にはこんなことがありました。

〈青山地区ジュニア防災研修会〉

生徒会を中心とした有志の皆さんが、参加してくれました。



〈第49回全日本中学校陸上競技選手権大会〉

福島県とうほう・みんなのスタジアムで全国大会が開催されました。

3年生の岡村君が共通男子110mHに出場しました。



〈市民じんけんの集い〉

三木市文化会館で市民じんけんの集いが開催されました。1年生の河野さんが人権作文を朗読しました。1年生の瀧田さん、2年生の郷路さんの人権標語も紹介されました。



9月の行事予定は、保護者専用ページに載せています。

《毎週水曜日に定時退勤日(18:00)に取り組んでいます。ご理解とご協力をお願いいたします。》